

第1部  
環境基本計画がめざすもの

# 第1部

## 環境基本計画がめざすもの

### 第1節 めざすまちの姿

福岡市は、北に博多湾や玄界灘、南に脊振・三郡山系など海と山に囲まれ、これらを多々良川や室見川など幾筋もの川がつなぐ、豊かな自然に恵まれたまちです。

この恵まれた自然の中で、アジアをはじめ世界中から様々な人や物が行き交う、賑わいと活気あふれる都市として栄え、文化を築き上げてきました。

しかしながら、都市の発展とともに、利便性と物質的な豊かさを求めて資源やエネルギーを消費してきた結果、私たちの日常生活や事業活動は、地球温暖化や大気、水質等の汚染といった、環境への負荷をもたらしました。

私たちの健やかで快適な暮らしや文化は、先人から受け継いだ豊かな環境がもたらす恵みのもとに成り立っており、私たちは、この豊かな環境を大切に守り育て、将来の世代へ引き継いでいく責務があります。

この責務を果たすため、市民・事業者・行政などあらゆる主体が、地域や学校、職場などあらゆる場面において協力・連携し、環境への負荷の低減に努めなければなりません。

これらを踏まえ、私たちは、豊かな自然と人びとが調和し、持続的な発展が可能なまちの実現に向け、以下の〈めざすまちの姿〉を掲げ、取組みを進めていきます。

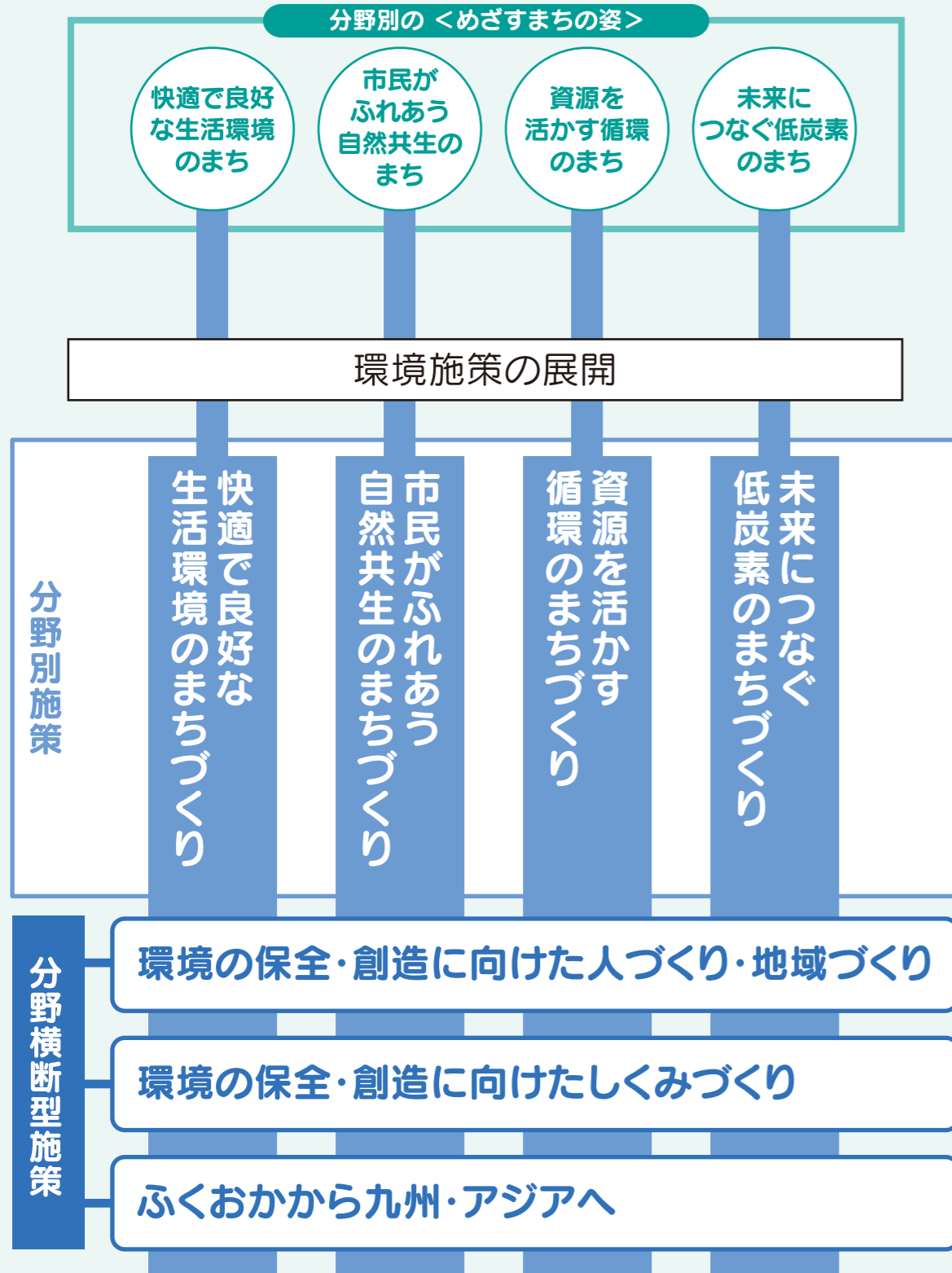
#### 〈めざすまちの姿〉

豊かな自然と歴史に育まれ、未来へのちつなぐまち

〈めざすまちの姿〉の実現に向け取組みを進めるにあたり、福岡市の環境施策の方向性を明らかにするため、次節で、施策分野ごとに、現状と課題を踏まえ、今後めざす具体的なまちの姿を描きます。

<めざすまちの姿>

豊かな自然と歴史に育まれ、未来へのちつなぐまち



1. 快適で良好な生活環境のまち

【現状と課題】

快適で良好な生活環境を実現するためには、大気、水質、騒音、振動、土壌などの環境基準を達成するとともに、気候変動適応のための取組みや、豊かな自然と悠久の歴史に培われた魅力ある景観を活かした美しいまちづくりを進める必要があります。

大気環境については、自動車交通に起因する影響は改善されてきていますが、光化学オキシダントなどの環境基準は達成できていません。また、近年、黄砂や微小粒子状物質(PM2.5)などの越境大気汚染物質に対する健康への影響が懸念されています。

さらに今後、吹付けアスベストなどの使用建築物が経年劣化し、解体等工事の増加が見込まれるため、建築物のアスベスト除去の推進やアスベスト飛散防止対策の強化が求められます。

自動車交通騒音や水質汚濁については、全体的には改善傾向にありますが、一部で環境基準を達成できていません。有害物質による土壌や地下水の汚染といった課題についても、事業者への指導等により対応していく必要があります。

また、近年では、2012(平成24)年度の九州北部豪雨など、地球温暖化・気候変動が原因と見られる激甚災害が発生しています。また、極端な気温の上昇やヒートアイランド現象などによる熱中症患者の増加も懸念されています。地球温暖化の緩和策とあわせ、気候変動に適応した取組みも並行して行うことが重要です。

緑や水辺は、歴史的な建造物などとともに、福岡市の個性ある景観の礎となっているだけでなく、都市の中に潤いややすらぎをもたらす貴重な自然のオープンスペースとして重要な役割を果たしています。しかし、市全域における緑の量は減少傾向にあり、水辺環境についても、博多湾では砂浜などの自然海岸の減少など課題が残されています。

自転車の放置防止や屋外広告対策、空き缶やたばこの散乱防止など、身近な生活環境については、関係条例に基づく取組みによる改善がみられますが、引き続き、マナー向上に向けた取組みを進める必要があります。

これらを踏まえ、次のとおり<快適で良好な生活環境のまちの姿>を掲げ、取組みを進めていきます。



## &lt; 快適で良好な生活環境のまちの姿 &gt;

## 大気汚染や気候変動に伴うリスクが軽減され、歴史やすぐれた景観を活かした快適なまち

- 予測情報の提供や発生源対策等により、黄砂やPM2.5などの大気汚染物質の影響が軽減しています。
  - ・健康影響調査の結果に基づいた予測情報や民間の開発したソフトなどにより、適切な情報提供が行われています。
  - ・黄砂やPM2.5、光化学オキシダントなどの大気汚染物質の発生源対策や研究が進み、大気汚染に係る環境基準を超過する日が減っています。
- 気候変動による洪水・熱中症などのリスクへの対策や、ヒートアイランド現象への適応策が構築されています。
  - ・豪雨や大型台風、猛暑など極端な気象現象への対策が充実した、安心して暮らせるまちとなっています。
  - ・緑化をはじめとしたヒートアイランド対策の推進により暑熱感が緩和され、四季を通して快適に過ごせるまちとなっています。
  - ・熱中症の予防・対処法が市民に普及しています。
- 身の回りの生活環境が良好に保たれ、歴史や景観を活かした美しいまちが実現しています。
  - ・水、大気、音環境などの環境基準を達成し維持し、有害化学物質や吹付けアスベストなどの飛散による環境リスクが軽減されています。
  - ・自然や歴史風土と調和した美しい景観が形成され、潤いのある生活環境が実現しています。

## 2. 市民がふれあう自然共生のまち

## 【現状と課題】

福岡市は豊かな自然に恵まれ、脊振山のような森林生態系、室見川・那珂川・多々良川などの河川生態系、それら河川沿いに残る農地生態系、玄界灘や博多湾などの海洋生態系、それらに沿って形成する干潟や砂浜などの沿岸生態系など、多種多様な生態系を有しており、カブトガニやクロツラヘラサギなどをはじめ、貴重・希少な野生生物や植物群落も確認されています。

また、博多湾で採れる魚介類や市内で生産される農産物は、食生活を豊かにし、潮干狩りやバードウォッチングなどの自然体験は、豊かな感性を育んでいます。

しかし、都市化によって、農地や森林、博多湾では砂浜などの自然海岸が減少するとともに、多様な生物の生息地である里地里山などにおいては、管理の担い手不足など、自然に対する人間の働きかけが減ったことにより、二次的な自然環境の質（植生等の質）が変化しています。また、外来生物（移入種）による地域固有の生物相や生態系への影響もみられます。さらには、地球温暖化も生態系の変化をもたらす重要な要因の一つと考えられており、博多湾の水温上昇による水生生物への影響などが危惧されています。

このような中、福岡市ではカブトガニや渡り鳥のガン・カモ類が減少するなど、貴重・希少種及び身近な生物の生息環境が悪化し、生物多様性の損失が継続しています。

これらのことから、生物多様性の保全・回復に取り組み続けるとともに、日々の暮らしの中で生物の生息・生育空間を再生・創出し、自然からの恵みを持続的に利用していくことが求められています。

これらを踏まえ、次のとおり「市民がふれあう自然共生のまちの姿」を掲げ、取り組みを進めています。

## &lt; 市民がふれあう自然共生のまちの姿 &gt;

## 豊かな自然と共生し、その恵みに支えられ、命をつなぐまち

- ふくおかの多様な生き物や自然環境が保全・再生されています。
  - ・海洋、島しょ（島々）、干潟、平野、丘陵、山地、河川など、ふくおかの多様な生息環境を守るとともに、中心市街地や港湾地域において、公園や緑地の整備等を行い、山、川、平野、海のつながりが確保されています。
  - ・動物、水生生物、植物などふくおかの貴重な生き物を守り、豊かな生物相が回復しています。
- 人びとが、自然からの恵みを持続的に利用しながら暮らしています。
  - ・日々の暮らしの中で、生きものとふれあい、身近な緑を体感することができる、潤いのあるまちづくりが進んでいます。
  - ・ふくおかの生物多様性に育まれてきた文化が承継されるとともに、新たな文化が創造されています。
- 生物多様性の重要性への理解が浸透し、その保全や持続可能な利用のために、市民・事業者が一体となって取り組んでいます。
  - ・ふくおかの魅力が生物多様性の恵みに支えられていることを理解し、その保全の重要性を認識し、行動しています。
  - ・ふくおかの生物多様性を支える多様な主体・地域のネットワークが構築されています。